



第4課 もっと親しくなろう (1)

— 前にした話の続き —

扉

導入

第4課では、前にした話の続き（近況）を話すことで仲を深めていくことを目指します。以前話した内容を確認したり、聞いたことを確認したりすることで、続きに興味を持ってもらったり、興味があることを示すことができます。また、続き（近況）を話すことでお互いのことをより深く知ることができます。しかし、学習者の中には、「前に聞いた話をもう一度初めから聞かなければならならず、うまくそのことを切り出せなかった」、「前に話した話をどこから話しはじめたらいいのかわからなかった」というような経験を持っている人もいます。また、そもそも話の続きを話すための表現があるのかどうかを意識したことがない人も多そうです。

まずは<よくあるもやもや>1つ目（イラストのマイクが言っているように）相手が前にした話の続きを聞きたいときに、どのように話を切り出せばよいかわかるかどうか確認し、そのような経験がある場合は具体的な内容を話してもらいます。また<よくあるもやもや>2つ目、自分が前にした話の続きをしたいのに、うまく始められなかったという経験があるかどうかを確認し、ある場合は具体的な内容を話してもらいます。

よくあるもやもや

- 話の続きを聞く側の悩みです。どこから聞けばよいかわからないというもやもやです。具体的な例が出てこない場合は、「最近の出来事について聞くとき、初めて聞く話なのか、前に少し聞いたことがある話なのか区別して聞くことができますか」「相手が前にした話の続きを聞きたいとき、どのように聞きますか」と技術面で質問してみます。 → **POINT 1** **POINT 2**
- 話の続きを話す側の悩みです。どこから話せばよいかわからないというもやもやです。具体的な例が出てこない場合は、こちらも技術面で質問してみます。「最近の出来事について話すとき、初めて話す話なのか、前に少し話したことがある話なのか区別して話をすることができますか」「前にした話の続きをするとき、どのように話しますか」と聞きます。 → **POINT 3**



イラスト

STEP1 の〈もやもや会話〉の内容をイラストで表したものです。上級学習者にはこのイラストを見せながら、文字情報なしに会話のだいたいの内容や問題を把握させると良いでしょう。具体的な問題について考える作業は、次ページからのSTEP1で行うので、ここではあまり時間を取る必要はありません。

STEP1 考えよう

もやもや会話

【会話の内容と登場人物の心情】

中庭で、マイクさんと静さんが話しています。マイクさんは、以前静さんが話してくれたアルバイトの面接の話の続きを聞きたいと思っています。しかし、静さんはマイクさんが自分のアルバイトについて相談したいと思っていると思い、なかなか前の話の続きを切り出してくれません。「静は？」と聞かれ、静さんも前の話の続きを話しはじめようと思しますが、どこから話せばいいのかわからず（マイクさんがどこまで知っているのか確認できず）、スーパーのお惣菜作りのアルバイトをするか迷った話から始めてしまい、マイクさんを困惑させてしまいます。また、マイクさんもその話は聞いたことがあると言えず、最初からもう一度話を聞くことになってしまいます。この会話がなぜ盛り上がらないのか、そのポイントを考えさせます。

質問

【解答例】

- ① マイクさんのアルバイトの話や相談が始まると思った。静さんにおすすめのアルバイトを紹介してもらいたいと思った。
- ② 初めはスーパーのお惣菜作りの工場で働こうと思ったけど、お客さんから味の感想を聞きたいから、レストランもいいなって思って、レストランのアルバイトを探しはじめたということ。
- ③ 静さんがどこでアルバイトを始めたか聞きたかった。アルバイトが今どんな感じが聞きたかった。

【指導のポイント】

- マイクさんの立場から、静さんにアルバイトの話をしてもらうためにはどのような話の始め方をすればよかったのか考えさせます。
- 静さんの立場から、自分の話したことを確認するためには何をすればよかったのか考えさせます。



- 二人の会話は盛り上がりせずここで終わってしまっています。マイクさんが聞きたかったことは本当は何か、「静さんのバイトのどのようなことを聞きたかったと思いますか」などの声かけをして想像させます。また、どのように聞けばよかったのかも考えさせます。

スツクリ会話

<もやもや会話>と比べて、会話が楽しく続いていることを確認します。「<もやもや会話>の下線部のところは、POINT のような表現を使うと、会話がスムーズに続くようになります。そのポイントについて学習しましょう。」というような声かけを行い、次のSTEP2につなげてください。各POINTについて、ここで話しあったり、解説したりする必要はありません。

STEP2 学ぼう

POINT 1 前の話の続きを聞きたいところから聞く

【指導のポイント】

- 1) の表現は相手のせりふの引用（せりふをもう一度言う、再現する）をして、相手に話の続きを始めてもらう表現です。「結局」を用い、結果を聞く表現では発話の最後が「～た(の)?」になります。「結局」を入れることで最終的にどうなったか結果を聞きたいということが途中で相手にも伝わりますが、必ずしも入れる必要はありません。また、「どうだった(の)?」「(今) どう?」は感想を聞く表現です。学習者によっては「どう?」と聞くところで「どうした?」「どうなった?」を使う間違いをする人もいますので、結果と感想を強調したほうが良いでしょう。
- 「どうだった?」「どう?」は後ろに形容詞などが続くパターンも考えられます。「どうだった? おもしろかった?」「どう? 楽しい?」等です。
- ここでは「この前」のみを挙げていますが、「この間」「こないだ」のような表現に変えることもできます。
- 2) の「～って」は話題化の形式として使われます。短い言葉で前回の話をまとめる必要があります。「～ってさ」のように「さ」を付け加えることもできます。「さ」を使い、トピックを強調することもできます。



練習 1

【解答例】

- 1) 部活は、結局写真サークルにしたの？／この前、「写真サークルに見学に行く」って言ってたけど、入ったの？
- 2) 昨日の映画って、どうだった？／「映画見に行く」って言ってたけど、どうだった？
- 3) バイトは、今どう？／この前、「バイト先で友だちがなかなかできない」って言ってたけど、結局できたの？

【指導のポイント】

- 前述したように、「結局」「どうしたの？」「どうなったの？」の使い方には注意が必要です。例えば「映画見に行くって言ってたけど、結局どうしたの？／どうなったの？」という誤用をする場合があります。「結局、どうしたの？」というのは、単に「前の話の続きを話してもらおう」のではなく、何らかの結果の出ていない課題があり、その結果が知りたいときに使う表現のため、上記のような「映画に行って、映画はどうだった？」のような場合は、「映画見に行くって言ってたけど、どうだった？」というように指導すると良いでしょう。

タスク

【指導のポイント】

- タスク話題例：「レポートは結局提出できたの？」「「バイト始めたい」って言ってたけど、結局見つかったの？」など。
- 相手が前にした話の続きを聞くためのスタートの質問であることを再確認しておきましょう。答える方(B)は、簡単に答えるのもいいですが、なるべく続きを話す（その話題で会話を続ける）ことを意識させると良いでしょう。

POINT 2 相手が前に話した内容を確認しながら聞く

【指導のポイント】

- 「～っけ？」は自分が思い出していることを表すと同時に、相手にも思い出すよう促す表現です。自分が覚えていることが正しいかどうか確認する働きがあります。「～って言ってたっけ？」「～んだったっけ？」を言いなれていない学習者が多いので、例などで発音練習をしたり、適当な言葉を入れて練習するといいかもかもしれません。
- 「っけ？」は下降イントネーションであることに注意させてください。No.15 (マイク)、No.17の音声をモデルとして聞かせると良いでしょう。



- 「～んだったっけ？」の「ん」を落としがちなので注意が必要です。
- 「言ってた」という形になることにも注意しておく、あとのPOINT 3との区別もつきやすいです。
- 自分が忘れたことを確認する際、「どこで」等疑問詞を忘れずに入れる必要があります。

練習 2

【解答例】

- 1) (あ、) 「家族が日本に来る」って言ってたっけ？／家族が来るんだったっけ？
- 2) どこでバイトしてるって言ってたっけ？／どこでバイトしてるんだったっけ？
- 3) あ、今日水曜日か。「かっこいい (かわいい) お客さんが来る」って言ってたっけ？／
あ、今日水曜日か。かっこいい (かわいい) お客さんが来るんだったっけ？

【指導のポイント】

- 「～って言ってたっけ？」 「～んだったっけ？」がスムーズに言えるようになることを意識させます。

タスク

【指導のポイント】

- タスク話題例：「この前、「バイト始めたい」って言ってたっけ？」 「サークル、何に入ったんだっけ？」など。
- 「っけ？」が下降イントネーションになっているかどうか。No.15 (マイク)、No.17 の音声をモデルとしてご利用ください。

POINT 3 前に相手にどこまで話したか確認しながら話す

【指導のポイント】

- ここで注意したいのはPOINT2の「～言ってたっけ？」との違いです。説明にもあるように、相手の場合は「～言ってたっけ？」、自分の場合は「～言ったっけ？」で指導します。「私は～言ってたっけ？」や「あなたは～言ったっけ？」という発話もあり得ますが、この課の「話の続きを聞く」という場面ではあまり出てこないので扱いません。
- POINT 2と同様に、「っけ？」のイントネーションに注意させてください。No.15 (静)、No.18 の音声をモデルとして聞かせると良いでしょう。



練習 3

【解答例】

- 1) 休みの日はいつもごろごろしてるって言ったっけ？
- 2) 文学の授業で毎週レポート書かないといけないって言ったっけ？
- 3) 最近、バイト始めたって言ったっけ？

【指導のポイント】

- 「ごろごろしている」→「ごろごろしてる」、「レポートを書かないと」→「レポート書かないと」、「バイトを始めた」→「バイト始めた」のように省略しても良い場合はする方が良いと指導します。適宜、巻末の「話しことば」(p.95)を参照させてください。
- 「言ってたっけ?」と混乱する学習者もいるのでスムーズに言えるようになることを意識させます。
- 3) 「よかったじゃん」の「じゃん」は「ではないか」「じゃないか」と相手に同意を求める表現で、書きことばでは「よかったではないですか」となります。

タスク

【指導のポイント】

- タスク話題例：「授業に気になる人がいる」って言ったっけ?」「この前「バイト始めたい」って言ったっけ?」「サークルに入った」って言ったっけ?」など。
- 練習3やここでは会話冒頭の質問として練習しますが、話の途中でも用いることができます。
- 「前の話の続き」の部分では実際に続きを話しはじめさせます。
- 「っけ?」が下降イントネーションになっているかどうか注意させます。No.15 (静)、No.18の音声をご利用ください。

STEP3 お互いについて知ろう

話そう

ここでのテーマは留学生活で共通することが多そうな話題を集めています。なかなか話すことが思いつかないペアには、教師が最近の出来事などを質問することによってサポートをすると良い（出来事としては小さなことであっても、話し方によっておもしろい経験として話すことができるため）でしょう。

【場面例】

場面を意識した会話の始め方、話題転換を自然に行う表現などに注意させます。



【場面を意識した始め方の例】

A：久しぶり～

B：おー久しぶり～

A：先週休んでた？

B：そう、風邪ひいちゃってさー

A：え、そうなの？ 大丈夫だった？

B：うん、大丈夫ー！

(沈黙)

B：この前、バイト始めたって言ってたけど、どう？…

【三者会話の場合】

学習者 A、B、C がいた場合、A が B に「この前、～って言ってたけど～たの？」と始めた場合は A と C は一緒になって B の話を聞きます。ここで、それぞれがそれぞれの話（例えばバイト）をせずに、続きをある程度話してもらい、それに反応する必要があります。一通り話が終わってから、他の二人の話に移行します。

<会話録音の流れ>

1 課を参照してください。

発表しよう

【フィードバック上の注意点】

■全課共通

- カジュアルな会話にふさわしい表現を使えているか。
- 場面を意識した始め方ができているか。

■ 4 課

- 「この前、～って言ってたけど、～たの？」 「～って、結局～たの？」 という表現を相手が前に話した内容の続きを聞く表現として使えているかどうか。
- 「この前、～って言ってたっけ？」 という表現が、自分が覚えていることが正しいか確認する質問になっているか。（相手に話の続きを話させてあげることができているか）
- 「～って言ったっけ？」 という表現が、自分が話した内容を相手が覚えているか確認する表現として使われているか。



- 聞きたかった話の続きを聞いているか。(短すぎないか)
- 「っけ？」が下降イントネーションになっているかどうか。No.15の音声をご利用ください。

【学習者の会話例と、フィードバック例】

学習者の会話例

- 1 A：久しぶりー。
- 2 B：えー久しぶりだねー。なんで先週来なかったの？病気？
- 3 A：あー病気だけじゃなかった。ちょっと寝坊したから…
- 4 B：あーサボりか！
- 5 A：うん、疲れたまっていたから。
- 6 B：そっかー。あ、最近下宿先で工事してるって言ったっけ？
- 7 A：工事はほんとめんどくさいね。
- 8 B：ほんとほんと
- 9 A：何かBさんの洗濯物は汚くなったって言ったっけ？
- 10 B：そう…何か洗濯したばかりの服が汚れちゃった。工事のほこりでめっちゃ汚
- 11 れた。
- 12 A：服全部？
- 13 B：服全部！
- 14 A：つらいね。じゃもう一度全部洗濯しなくちゃいけなかったの？
- 15 B：そうです！めっちゃ大変だったよー。

フィードバック例（教師のコメント例）

★カジュアルな会話にふさわしい表現か

- 二人とも共感の仕方、あいづちの打ち方、感情の示し方がとても上手ですね。
- 6行目「あ」で話し始めているのがとても自然です。
- 15行目「そうです！」は「そう！」に変えたほうがいいでしょう。

★場面を意識した始め方ができているか

- 「二週間ぶりに会った」という場面を意識した会話の自然な始め方ができています。
- 相手が言ったことについて、その先を予想したりしながら理解を示しているのはとても良いと思います。



★4課の学習項目について

Aさんへ

- 7行目、Bさんの気持ちを考えて、自分の言葉で感想を言っているのがとてもいいです。この前に「あー、言った」のような相手の話を覚えている、という発話を入れてみましょう。
- 9行目、相手が前にした話題については、「言ったっけ？」ではなく、「言ってたっけ？」を使います。
- 12行目、14行目でBさんの話に対して、質問したり、予想したことを話して盛り上げているのがよく分かります。Bさんも話の続きをしやすかったと思います。

Bさんへ

- 「～って言ったっけ？」が自分の話の続きをするためにうまく使えていました。
- Aさんの質問にもうまく答えて、話の続きを話していたと思います。
- ただ、話の続きはもうAさんが知っていることが多かったので、新しい情報を話す必要があったでしょう。例えば、そのあと工事はどうなったのか、洗濯物は今どうやって干しているのかなど。

コラム④ わかりやすい呼び方って？

【指導のポイント】

- 初めは「名前+さん」と呼んでいた人のことを、仲良くなるといつのまにかニックネームや呼び捨てをするようになりますが、他の人や場所、日時も同様に呼び方が変わってきます。なるべく短い言い方で呼ぶことでお互いに知っているということを伝え、また特定しやすくなります。下線の部分が変化していることに着目して確認してみましょう。
- また、お気づきかもしれませんが、STEP1の会話では「大学の坂の下」を「坂下」と呼んでいます。自分たちの知っている人や先生、身の回りにあるもの、学校の構内にある建物や教室、まわりの店などどんな風に呼んでいるのか確認するのも良いと思います。